

# 「夢の半分が実現」

株式会社 創喜

出張社長に聞く



本社外観、奥に見えるのが完成した靴下のテーマパーク「S.Labo」



ラボ内には古い編み機などが展示されている



厚みがありざっくりとした編目が特徴のローレジソックスを得意とする株式会社創喜(広陵町疋相・出張耕平代表取締役)は17日、自社敷地内に自転車を漕ぐことで靴下が編める「チャリックス」の体験スペースや、靴下について学べる「S.Labo」を開店した。「靴下のテーマパークを作ることが夢だった」と語る出張社長に、チャリックスの製造や自社ブランド立ち上げ、今後の展開などについて話を聞いた。

同社は昭和2(1927)年に靴下工場として創業。主に下請けでの製造を続けていた。5代目になる出張社長が手伝いとして戻ってきたのは約12年前。その当時は母親が社長として、会社を運営して

企業で営業の仕事に就いていた出張社長が、戻ってきて感じたのは業界の衰退。日々悪くなる一方で、会社勤めをしていった経験と、自社の培つて

これまで靴下業界とは違う企業で営業の仕事に就いていた出張社長が、戻ってきて感じたのは業界の衰退。日々悪くなる一方で、会社勤めをしていった経験と、自社の培つて

S.Labo  
エスラボ

# 広陵町に靴下のテーマパーク完成

ならないのか」ということを考へるようになつたという。

「当時は下請けばかりしてい

たのでブランドさんやメーカーさんの下着などの注文を受ける、OEMという仕事をしていました。さらに小ロットの時代で、売る側にとつては種類が増えると聞こえがいいんですか、多品種になるため必要なサンプルの数も増え、作

ものだったんです」と出張社

長は振り返る。

小ロットで製造することは

コストが売り値に見合わない。

時代で、売る側にとつては種類が増えると聞こえがいいんですか、多品種になるため必要なサンプルの数も増え、作

ものだったんです」と出張社

長は振り返る。</p